

令和4年度 学校関係者評価結果
報告書

令和5年1月

学校法人 大志学園

専門学校 早稲田国際ビジネスカレッジ

2023年1月27日

専門学校 早稲田国際ビジネスカレッジ

早稲田国際ビジネスカレッジ 報告書

第一議題

専門学校早稲田国際ビジネスカレッジ 2022 年度活動報告

(令和4年4月1日～令和5年1月27日現在)

1. 概要

昨年度から学科名をテキスタイル学科からデザイン総合学科テキスタイルデザインコースに名称変更を行った。この名称変更をすることで、テキスタイルだけに留まらずアクセサリーやレザークラフトの授業を取り入れ

(1)教育について (デザイン総合学科テキスタイルデザインコース)

①デザイン案を考える際、市場調査を繰り返し複数案提案する。提案されたものを拡大・統合・整理を繰り返しながら制作を行うことで、デザインを研鑽し完成に近づけていく。この試みは現場と同等の仕事の進め方を行う事で即戦力として対応できる人材を育てるために行っている。

②学校オリジナルブランド「志」を2020年発足、制作だけに留まらず販売方法を実践で学ぶ教育の場として活用している。卒業後に作品販売や独立を見据えた教育を行うことで自立できる人材育成を行っている。今年度から価格を低く設定し、興味を持った方が購入しやすい値段設定を行った。(添付資料1)

③作品作りを行う際、最初から最期まで自分の手を使って制作を行っている。この実習を行うことで製造工程の理解につながり、製造工場との対話や生産管理に直接つながる知識を得ることが出来る。(添付資料2)

(2)教育について (国際教養学科・国際情報学科)

①今年度は学校の方針として、コロナの感染対策に努めながら、原則、対面形式で授業を行った。第6波のピーク時にオンラインと対面との併用、いわゆるハイブリット形式に切り替えたこともあったが、今年度においては、対面形式の講義方式を徹底した。

②これまでに修了・卒業した学生全てを対象にし、3回に分けて同窓会を実施した。全3回で計79名の卒業・修了生が参加し、横のつながりだけでなく縦のつながりも生み出すこと

ができた。卒業・修了生の中には有名企業に就職したケースも多く、こういった卒業・修了生を呼び、就職セミナーの実施などに結び付けていく予定である。(添付資料3-1)

③コロナ禍も以前に比べて落ち着いたため、学外行事を可能な限り以前のように行うようにした。10/13・14日においては富士山が見える宿泊施設に1泊2日の勉強合宿を行い、学生達のモチベーションの向上・教職員との関係の強化を実現することができた。

(添付資料3-2)

④コロナ禍のために学生の運動不足や蓄積したストレスを解消する必要があると考え、リフレッシュサポートと称して学生達の心身のリフレッシュを図る取り組みを積極的に行った。例えば、ヨガは旧TAの講師をお呼びし、週1回行い、学生達からの好評を得たほか、卓球も月に1度はトーナメント戦を行うなどし、学生達の積極的な参加が見られた。

(添付資料3-3,4)

評価項目 (教育について)	評価 (4~1)
専門分野の特性が明確になっているか。	4
現場に即した授業をしているか。	4
卒業後の事を考慮した教育がされているか。	4
コロナ禍に対応した授業をしているか。	4

4段階評価平均 [4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切]

【指摘事項】

特にございません。

(3) 教育連携の強化 (デザイン総合学科テキスタイルデザインコース)

制作に夢中になる事が多く勉強熱心な一面、自分の将来像や目標が明確化されていない学生も多数いる。現場での仕事の理解と目標に向かう意識を高めるために、今最も活躍しているデザイナーの方を招き仕事や制作への取組を話していただくことで意識向上につなげる。

(下記の活動報告参照)

2.主たる活動報告

(1)教育連携報告（添付資料4）

①アーティスト、デザイナー特別講座を開催

【特別講座】 イッセイミヤケデザイナー 金森七海 （7/14）

金森氏を招き、仕事の仕方、企画提案の方法をレクチャーしていただいた。多数の製品を持参していただきテキスタイルの技法とアイデアソースを聞いている時に学生達から様々な質問が飛びモチベーションの向上につながった。

(2) 教育連携の強化（国際教養学科・国際情報学科）

他大学の先生方や担当者をお呼びし、進学対策を中心とした教育連携の強化を図った。入学してくる留学生のレベルが高いため、当校を卒業してから大学や大学院に進学し、その後、就職を目指す学生が多いことが特徴である。

①難関大学進学セミナー

難関大学の入試担当や教授が来校し、学校説明会や特別講義を実施

（参加大学）東京理科大学(7/6)、国際基督教大学(8/24)、立命館大学大学院(9/12)、慶應義塾大学(10/6)

4段階評価平均 [4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切]

評価項目（教育連携の強化について）	評価（4～1）
教育活動に則った外部講師を呼んでいるか	4

【指摘事項】

特にございませぬ。

第二議題

デザイン総合学科事業報告

1.専門課程報告

在籍者デザイン総合学科テキスタイルデザインコース基礎クラス1年13名、2年9名、経験者クラス2年2名 合計24名

卒業後の進路として就職・進学・独立の3本柱を中心として募集に力を入れる。

2.卒業後の進路

(1) 2022年度就職実績 (2023/1/27時点)

就職希望者3名中1名内定

大成建設(株)本社営業推進本部企画推進部企画室

(2)2021年度合格実績 (2023/1/27時点)

東京造形大学 大学院 1名、神奈川大学 大学院 1名、文化服装学院 1名

3.授業内容

最初から最期まで自分の手を使い、テキスタイル制作する事で1枚の生地を作る過程を把握する事ができる。データ制作の際はPhotoshopを使用することで、技術修得することができる。この体験を得て卒業した学生は生産工場とやりとりすることが出来、アドバイスや工程改善を提案することが出来る。また生産現場で使用している機械は、手作業で行っている事を自動化したものであるため製造工程の理解は大事な基礎となる知識である。

(1)プリント実習

リピートデザインの知識から版制作、捺染、洗いまでの過程を学校内で全て完結する事が出来る。市場に出回っているプリント生地と同等のものを学校内で制作することが可能である。ここで出来上がった生地を縫製業者へ依頼して雨傘を制作、生地だけでなく製品イメージをつかむことも行っている。(添付資料5-1~5-4参照)

(2)織実習

オリジナルデザインを制作、様々な組織の実習体験と糸の染色を通し織生地制作することが出来る。ここで制作した生地を縫製することでオリジナル衣裳や雑貨を制作することが可能である。(添付資料6-1~6-4参照)

(3)友禅実習

友禅の基礎体験から帯制作、学年が進むとパネル制作等 友禅制作に必要な知識を学ぶことが出来る。担当講師は作家として長年の経験があり、作品制作だけでなく物創りへの心構えを含めたアドバイスをを行っている。(添付資料 7-1~7-4)

(4)アパレル企画

制作物の企画から上代設定、製品名の付け方といった企画を立てるための授業。ボード制作から発表までを行い企業に入った際、役立つ経験として企画の立て方からプレゼンテーションまでを学ぶことが出来る。

(5)EC サイト

写真撮影、写真修正、ネットへの掲載方法等を学ぶ。ここで写真の撮り方から修正を学ぶことで個人活動する際に必要な知識を学ぶことが出来る (添付資料 8-1~8-4)

(6)アクセサリー実習、レザークラフト実習

今年度からスタート、テキスタイルは平面作品が多い中で立体感覚とコーディネート感覚を養うための授業。立体物を実際に制作する過程で、立体感覚を身につけ将来自分がデザインした生地が製品になる際のイメージを身につける。ここで制作した作品を学校ブランド【志 kokorozashi】で販売する。(添付資料 9-1~9-4)

(7)卒業制作

展示方法や企画、展示に使う備品等を実践で学ぶことができる。

今年度実施 2023年2月21日~3月5日 佐藤美術館(添付資料 10-1~10-4 参照)

4.高等学校へ出張授業 (添付資料 11-1~11/4 参照)

人が成長するためには「知育」とともに心を育てる「情操教育」が必要になってきます。実習をして手を動かす授業を体験することで様々な感情が得ることが出来る。

温故知新・愚行移山・一意専心をテーマに染色体験を通して心の成長に繋げていく教育を行っています。また認知度の低い「テキスタイル」という言葉を広げていく活動の一環として取り組んでいます。

高等学校名は割愛

5.学外への発信

学内の授業だけに留まらず学外展示やイベントを通して、発表する喜びやデザイナーとしての体験を持たせる。

(1)染の小道 2023 (添付資料 12 参照)

2023 年 2 月 24 日～2 月 26 日開催予定

新宿区中井・落合を中心に開催する染色イベント

テキスタイル学科は 6 店舗を担当、暖簾制作を行い各店舗に展示

学生は各店舗に調査へ行き、店舗イメージや店舗の成り立ち客層を聞き取り調査、ここで調査した内容をもとに暖簾制作を行う。

開催告知の一環として JCOM テレビから取材の依頼あり。

(2)卒業制作展

2022 年 2 月 21 日～3 月 5 日開催予定

公益財団法人 佐藤国際文化育英財団 佐藤美術館で展示、卒業制作作品以外に通常授業で制作した作品も展示予定。

国際教養学科・国際情報学科事業報告

1.専門課程報告

在籍者国際教養学科 1 年 72 名 (内留学生 72)、2 年 37 名 (内留学生 37)、国際情報学科 1 年 36 名 (内留学生 36)、2 年 16 名 (内留学生 16) 合計 161 名

卒業後の進路として進学・就職に力を入れる

1.卒業後の進路

進路就職先割愛

2.授業内容

(1) 専門科目

国際教養学科は異文化理解、比較文化論、国際経営、国際協力など、国際関係や教養系の科目を中心に指導し、国際情報学科は国際情報、国際ビジネス、コンピュータ概論、情報処理、プログラミングなど主に IT 関連の専門科目を指導した。

(2) 進路対策

進学にも就職にも対応できるように、ビジネスマナー、資格検定対策、キャリアデザイン、ライフデザインなど、将来を見据えた科目を指導した。

(3) 日本留学試験、大学受験対策

大学受験を希望する留学生を対象に、日本の共通テストに該当する留学生用の日本留学試験対策（日本語、政治経済、地歴、数学、理科）、大学受験対策として小論文、大学院希望者向けには研究計画書の作成、プレゼンテーションなどの科目を指導した。

4段階評価平均 [4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切]

評価項目（事業報告について）	評価（4～1）
学科の内容に即した授業を行っているか。	4
実習における基礎教育を行っているか。	4
卒業後の進路に力をいれているか	4

【指摘事項】

特にございません。

3.今後の取組

(1)学外活動の活性化

コロナのため参加を休止していた「デザインフェスタ」へワークショップ参加を行う。学生は接客と参加者への指導を行うことで、コミュニケーション力と作品が売れることの喜びを得ることができる。卒業後の作家活動や就職した際の一助となる。

(2)地域との取組

新宿区との地域連携を行いイベントの参加。地域の認知度を上げる。（新宿区文化観光産業部文化観光課、東京商工会議所、新宿観光振興協会等）学校の取組、合同イベント企画を行う。

新宿区染色協議会協賛「染の小道」2019年・2020年・2022年参加

2021年はコロナウイルスの影響により「染の小道」中止

2023年度参加確定(2023年2月24日～26日開催)

(3)研修旅行

テキスタイル産地に赴き、見学と実習を行うことで生産現場の取り組みと工程を知ることが出来る。山梨県富士吉田市を予定

(4)リフレッシュサポートの充実

コロナ禍も落ち着きつつある中、学生達のストレス緩和のためにも様々なリフレッシュサポートを提供していく。これまでは卓球やヨガの授業を行ってきたが、今後はダンスをはじめとしたさまざまなジャンルを検討していく。

(5)同窓会やキャリアセミナーの定期開催

開校 9 年目を迎え、卒業生が就職することも多くなってきたため、卒業生で就職した方をお呼びするなどして在学生向けにキャリアセミナーを開催していく。また、同窓会を定期開催し、横のつながりだけでなく縦のつながりを作ることで、学生間の良い循環を生み出していく。

4段階評価平均 [4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切]

評価項目（今後の取り組みについて）	評価（4～1）
学校外の協会等と連携をとっているか	4
地域に対する取組を行っているか	4

【指摘事項】

コロナや景気低迷などの厳しい状況下で様々な意欲的な取り組みをされていることに心より敬意を表します。

以上